

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577800315		
法人名	特定非営利活動法人 宅老所 あじさい		
事業所名	グループホーム あじさい		
所在地	山口県下関市豊浦町大字黒井1536-1番地		
自己評価作成日	令和2年1月28日	評価結果市町受理日	令和2年6月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク	
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内	
訪問調査日	令和2年2月28日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るく家庭的な雰囲気、入所者様一人ひとりを理解し、その人に合わせて出来ない事を中心に援助をおこなっています。危険を伴わない限り、見守りを重視し入所者様の思いを大切にして、自由に行動していただいています。コミュニケーションを大切にし、お話をよく聞き、一緒に寄り添う介護をおこなっています。入浴は、毎日おこなっており、希望に応じて入浴をおこなっています。また、終末期における入所者様への身体的、精神的な支援を多種職や家族と連携し最後までその人らしく生活できるように支援している。毎月の部内研修を行い、職員のスキルアップを図れるようにしている。また、毎月自主的に消防時・災害の避難訓練を行い、防災意識の向上やスムーズに避難を行うことができるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、日々の関りの中での利用者の行動や表情、言葉などを、職員の対応と色分けして「介護記録」に記録しておられる他、時には旧姓で呼びかけたり、入浴時や受診時などの個別対応の時間を大切にされて、りようしゃの思いや意向を把握する工夫をしておられます。8年前から毎月防災訓練を継続して行っておられ、火災や地震水害等の災害時に、利用者が避難できる方法を全職員が身につけるように取り組んでおられます。ヒヤリハットの事例が発生した場合、引き継ぎ時に伝えて全職員で共有され、職員会議で報告して再検討しておられる他、事例を丁寧に分析され、その結果を運営推進会議で報告して事故防止や事故発生時の備えに取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、生き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内の目につく所に掲示しており、理念を共有できるように、年度の初めに勉強会をおこない、思いを共有し実践出来るようにしている。朝礼時にグループホームの理念唱和を行い、氏名札の裏に理念が書いてあり、いつでも見られ確認出来るようにしてある。	事業所独自の理念をつくり事業所内に掲示している。年度初めに内部研修で理念について学び、全職員で話し合っている。朝礼で理念を唱和し、名札の裏に記載して理念を共有し、日々のケアの中で実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(クリスマス会・文化祭・祭り等に参加し積極的に交流している。敬老会にボランティアをお願いし交流している。散歩時にコンビニでコーヒーを飲み地域の一員として交流している。	法人が自治会に加入し、総会に出席している。職員は年2回の地域の草刈作業に参加している。利用者と職員と一緒に、地域のクリスマス会や文化祭、神社の祭り等に出かけている他、来訪するボランティアと交流している。近隣の散歩や買物(化粧品、おやつ)に出かけた時や散歩帰りにコンビニエンスストアでコーヒーを飲む時などに、地域の人と気軽に挨拶をしているなど、地域の一員として日常的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩や地域行事に参加し、また運営推進会議を通じて、民生委員や駐在所・自治会長に日常の様子や活動を写真等利用し報告し、地域の情報の共有をしている。			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全職員が考え方の指針と着眼点を理解し、自己評価をし共通認識を持ち、外部評価に臨み評価については職員会議等で話し合い共有し課題については目標を設定し改善に取り組んでいる。	主任が月1回の職員会議で評価の意義について説明し、自己評価のための書類を全職員に手渡している。評価のガイドラインを参考にして職員が記入したものを主任がまとめている。職員は評価を日頃のケアの振り返りと捉えている。前回の外部評価結果をうけて、緊急時の応急手当や初期対応の訓練を継続するため職員会議時に3回ミニ研修に取り組むことや、災害時の地域協力体制を構築するために自治会長との連絡を密にし地域へ防災訓練の案内状を出すなど、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価結果を報告し、評価への取り組み、改善にとりくんでいる。運営推進会議で出された意見は職員会議・朝礼・夕礼等で共有しサービス向上に活かせるようにしている。	会議は年6回開催している。利用者の状況や年間行事、感染症予防、外部評価、消防訓練の実施、ヒヤリハット、研修報告などを議題として質疑している。メンバーから徘徊の通報や詐欺被害についての説明など、地域の情報交換の場としており、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議や、研修会にも参加している。介護福祉課や地域包括支援センターと協力関係を築くように取り組んでいる。	市担当者とは、運営推進会議時や市主催の集団指導時の他、ファックスやメールで相談をしたり助言を得ているなど、協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時や地域ケア会議時、ファックス、メールで地域の情報交換をして連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	帰宅願望のある入所者様が不穏になった場合無理に止めることなく、職員が落ち着くまで寄り添い一緒に出たりし、本人の意思を大切にしようとしている。勉強会等で話し合い、拘束しないケアに取り組んでいる。身体的拘束適正化委員会を開催し指針や発生状況を共有して、拘束しないケアに取り組んでいる。	年4回、身体拘束適正化委員会を開催している他、内部研修で学び、職員は身体拘束について正しく理解しており、拘束をしないケアに取り組んでいる。外出したい利用者には、職員と一緒に外かけて気分転換できるようにしている。スピーチロックについては管理者や主任がその都度指導し、職員どおしでも話し合っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入所者様の尊厳を大切にし、勉強会等で理解した事を全職員が意識して職務を行うことに努めている。また、疑問に思う事は職員会議等で話し合うようにしている		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会や勉強会等で学ぶ機会をもっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行った。また、家族からの質問等があった場合はその都度対応し、理解・納得を得ている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に重要事項説明書に記載しており、説明している。また玄関に苦情処理概要が掲示しており、苦情箱を設置している。面会時、電話等でも常時苦情・相談を受け付けている。	第三者委員を設置し、契約時に相談や苦情の受付体制や処理手続きについて家族に説明している。面会時、運営推進会議時、運営推進会議の案内状等で、家族からの意見や要望を聞いている。玄関に意見箱を設置している。面会時は利用者の日々の様子を伝え話しやすい雰囲気づくりをしている。ケアの要望にはその都度適切に対応している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼や夕礼時に意見や提案を聴く機会を設け、その都度話し合い解決できる事はすぐに反映させている。また、毎月職員会議を行い、職員の意見や提案を聞く機会を設け反映させている。	主任は、朝礼時や夕礼時、月1回の職員会議の他、日常の業務の中でも随時職員の意見や提案を聞いている。食堂のテーブル配置や職員の希望による勤務時間帯の変更など、職員の意見や提案を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修を定期的に行ない、向上心を持って働けるような職場環境の整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の方を招いて、救命措置、リスクマネジメント・薬に関すること等の研修を行っている。またグループホーム内でも毎月の勉強会を行い職員の知識向上に努めている。外部研修も参加出来る者は参加して、スキルアップ出来るように努力している。	外部研修は、職員に情報を伝え、段階や希望に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。地域ケア連絡協議会（看取りについて）や地域推進会議など、年3回参加している。受講後は、職員会議や内部研修で報告して共有を図っている。法人研修は、急変時の対応、ターミナルケア、リスクマネジメント、おむつ交換や車いすの介助など、年5回受講している。受講後は資料を回覧している。内部研修は、年12回、年間計画に沿って、理念について、認知症、感染症予防、口腔ケア、身体拘束虐待防止、介護記録、リスクマネジメント、看取り、緊急時の対応、（誤嚥。窒息、けが、失神、心臓マッサージ）等のテーマで実施している。新任研修は、管理者と主任による1か月の指導の後、介護の現場で先輩職員の指導のもとに働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議、研修会等に参加し交流する機会を作り、活動している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人からの訴えをよく聞き安心出来るように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時や面会時に家族からの要望を聞き、話し合って関係作りに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族を交えて面談で同意を得て必要な支援を行う。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	楽しい時は一緒に笑い合えるような雰囲気関係性を築くようにしている。家事や行事等、手伝っていただけることは一緒に行なうようにしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話により日頃の様子伝えたり、必要時には連絡し共有している。また、あじさい便りを発行・送付しレク時や日頃の様子を伝えている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由な面会や外出・外泊、お見舞い・通院、自宅訪問又地域行事に参加する事で馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	家族の面会、親せき、友人、近所の知人の来訪がある他、電話の取次ぎや手紙、年賀状での交流を支援している。月1回入院中の夫の見舞いに出かけたり、誕生日に自宅へドライブしている他、家族の協力を得ての外出、外泊、一時帰宅、葬儀への出席など、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の好きな事・得意な事・出来ることを把握し、利用者同志と一緒に楽しめるよう職員が間に入り円滑な交流が持てるよう支援している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了しても相談に応じている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向を聞きながら、家族からの意向も取り入れ検討し把握に努めている。アセスメントにより、また、サービス担当者会議、職員会議で意見交換し、本人の意向を把握するように努めている。	入居時の事業所独自のアセスメント表を活用している他、日々の関りの中での利用者の行動や表情、言葉などと、職員の対応とを色分けして「介護記録」に記載して、思いや意向の把握に努めている。誕生日に自宅までドライブし記念写真を撮っている。入浴時や受診時などの個別対応の時間を大切にしている他、時には旧姓で呼びかけたりして思いを把握する工夫をしている。困難な場合は、家族に聞いたり職員間で話し合って本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや情報提供書、また、本人や家族等から得た情報を把握するようにしている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康管理表や介護記録を参考にし又、朝礼や夕礼・職員会議・カンファレンス等で現状の把握に努め、共有化を図っている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にケアカンファレンスを行い、本人や家族、必要な関係者の意向を取り入れ職員の意見やアイデアを反映した介護計画を作成し、実施状況一覧表に状況を記入してモニタリングを行っている。新たなニーズ・状態の変化があれば見直しを行なっている。	計画作成担当者を中心に月1回カンファレンスを開催し、本人や家族の意向を聞きながら、医師、看護師の意見を参考にして話し合って介護計画を作成している。「実施状況一覧表」をもとに3～6か月ごとにモニタリングを実施し、6か月ごとに介護計画の見直しをしている。利用者の状況の変化に応じてその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・健康記録・実施状況一覧や申し送りノートに記入し朝礼・夕礼等で情報共有を行っている。職員会議・ケアカンファレンスで介護の内容も検討しその方に合った介護を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望を取り入れながら、ケアカンファレンス等で情報共有し、検討・見直しをして個別に対応したサービスを行っている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議でも民生委員・警察・自治会長のご意見・ご協力いただき、ご近所の方にも協力していただき安全な生活ができるよう関係性を高めている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による定期的な往診を行い、また本人・家族の希望によりかかりつけ医への定期的な通院・受診を行う事で適切な医療を受けられるよう支援している。	以前からの医療機関をかかりつけ医としている場合は、家族の協力を得て受診の支援をしている。協力医療機関をかかりつけ医としている場合は、月2回の訪問診療があり、他科受診は事業所が支援している。受診時は健康管理表や口頭で情報を伝えている。結果は、家族には電話や面会時に報告し、職員には通院・往診記録や引き継ぎ簿に記入し、朝礼と夕礼時に伝えている。休日や夜間の緊急時には、かかりつけ医の指示をうけて適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の状態の変化等をすぐに看護職や訪問看護師に伝え、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は定期的にお見舞いに行き、病院関係者との情報交換や相談に努め関係作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化・終末期の支援の説明を行い、状態の変化がみられる時は家族に連絡し、再度説明し家族と話し合い、意向に合わせた支援を行っている。定期的に状態の報告を行い。本人の状態変化が見られる度に、本人や家族の意向を確認し、その都度、話し合いをおこない、協力しながら支援に取り組んでいる。	入居時に「重症化及び看取りに関する指針」に沿って、重症化や終末期に事業所のできる対応を家族に説明し「看取り介護・医療連携体制の同意書」を交わしている。実際に重症化した場合は、早い段階で家族の意向を再確認し、主治医や看護師の意見を聞きながら、移設を含めて方針を決めて共有しチームで支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故防止についてヒヤリハットを共有し対策を話し合いを行いリスクの軽減に努め実践している。また、勉強会を行い「リスクマネジメント」、「緊急時の対応」を学び、消防署による救命救急講習も受けている。	事例が起きた場合、その場の職員で話し合っ内容、原因、対策等を「ヒヤリ・ハット」または「事故報告書」に記録している。朝礼と夕礼時に伝えて回覧し共有している。月1回の職員会議時にも報告して再検討している他、運営推進会議でヒヤリハットの分析結果について報告し、介護計画にも活かして事故防止に取り組んでいる。内部研修で、主任や看護師を講師として、緊急時の対応（誤嚥、窒息、心肺蘇生）や感染症予防、リスクマネジメントを実施しているが、全職員が実践力を身につけるには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための 応急手当や初期対応の実践的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月自主的に消防訓練を行い地震・水害時の訓練や日中・夜間想定で訓練し消防署の指導による訓練も年1度実施している。、運営推進会議の方にも訓練に参加してもらい、協力体制を築いている。	年12回、防災訓練を行っている。そのうち1回は運営推進会議と併せて昼間想定火災（通報、消火、避難、誘導、）訓練を実施し、利用者も一緒に参加している他、うち9回は事業所独自に火災（通報・消火・誘導・避難）訓練を実施し、年2回自然災害（地震、洪水）の机上訓練を実施している。災害時の地域連絡網に地元自治会長が加入しており、地域の人へ訓練の案内状を出している他、運営推進会議で災害時の地域との協力体制について協力を図っている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格を把握し、適切な声掛けや対応をしている。また、勉強会行ない人格や尊厳が大切な物であることを学び、入所者様の尊厳やプライバシーを損ねないようにしている。	内部研修で学び、職員は理解しており、利用者を人生の先輩として敬意を払い、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な対応があれば管理者や主任が指導し、職員どおしでも話し合っている。記録物など個人情報は取り扱いに留意し守秘義務を徹底している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を大切にし自分の意思を大切に、本人の思いや希望を確認してから支援を行うようにしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先せず、本人のペースに合わせて、起床時間等本人の意思を優先し希望に沿った支援を行なっている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度、散髪のを設けている。服装も職員の着せやすい物でなく、本人や家族の要望を取り入れている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の好みを把握し、本人に合った献立・食事形態で提供し対応している。又食器洗いや食器拭き・テーブル拭き等一緒に行なっている。	三食とも、法人の配食を利用している。利用者の好みを聞いて厨房に伝えている他、利用者の体調に応じて、ミキサー食やきざみ食など厨房と連携を取って、一人ひとりに合った形状にして提供している。利用者は職員と一緒にテーブル拭き、食器洗い、下膳などできることをしている。行事に合わせて年6回のおやつづくり(プリン、ぜんざい、フルーツポンチ、どら焼き、クリスマスケーキ)、行事の料理(おせち、年越しそば)、誕生日の赤飯と寿司と刺身、ファミリーレストランでの外食、ひな祭りの白酒とひなあられ、ウッドデッキでの焼き芋やお茶会、家族と食べる敬老会弁当など、食事を楽しむことができるように支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康管理表に食事摂取量や水分摂取量を記入し把握し、個別に好みの物を提供する等し対応している。また、食事量が減った時は主治医に相談し、適切な処置をお願いしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、状態に応じて歯ブラシや口腔スポンジを使用し行なっている。また、出来ない所は介助も行なっている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、職員が話し合い排泄パターンを把握し、失敗やオムツの使用量を減らす事が出来るよう、1人ひとりに合った、トイレ誘導を行なっている。	「排泄・水分表」と「健康管理表」で排泄のパターンを把握し、利用者一人ひとりに合わせた言葉かけや誘導をしてトイレでの排泄や排泄に自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表や水分摂取量、健康管理表を作成し、適度な運動や牛乳等を提供したり、腹部マッサージを行う等、便秘の予防に取り組んでいる。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日入浴の機会があり、一人ひとりの希望やタイミング、又馴染みの職員等個々に応じた支援をしている。	入浴は毎日、10時から12時までと13時30分から15時まで可能で、希望すればいつでも入浴できる。利用者の体調に応じて清拭、シャワー浴、足浴等の支援をしている。ゆず湯にして季節を楽しんだり、職員と会話をしながらゆったりと入浴している。入浴してくない利用者には無理強いをせず言葉かけや順番を変えるなど、一人ひとりに応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	傾眠されている方には、本人の希望を尊重し、安心して休めるようにソファや居室で休んでもらっている。また、体の傾きが強い時は居室で休んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬管理表を作成し、把握できるようにしている。又、グループホーム・法人内で薬剤師の講師による勉強会を行っている。薬局に気軽に質問出来る関係性を築いている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵・漢字・計算・歌を唄う事や散歩。 また、洗濯物量みや食器洗い等、一人ひとりの希望に沿った事への支援を行っている。	洗濯物干し、洗濯物たたみ、テーブル拭き、食器洗い、下膳、ラジオ体操、歌を歌う、ぬり絵、折り紙、ちぎり絵、書初め、トランプ、脳トレ（漢字、算数）、パズル、ボーリングゲーム、輪投げ、落語を聞く、ボランティアとフラダンスを踊る、季節の行事（節分、ひな祭り、端午の節句、七夕、夏祭り、敬老会、クリスマス会など）など、活躍できる場面づくりをして、楽しみごとや気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を取り入れ自由に外出できるように支援している。又、地域行事への参加や買い物、散歩時にコーヒーを一緒に飲む、ご主人のお見舞いの支援や家族との病院受診・外泊等の機会を設けている。	近隣の散歩、買物、近くのコンビニエンスストアにコーヒーを飲みに行く、月1回夫の見舞いに病院へ行く、誕生日の夕食や一時帰宅、桜の花見、みかん狩り、家族の協力を得ての一時帰宅、外泊、葬儀、墓参りなど、一人ひとりのその日の希望によって戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望により所持・使用を支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望を聞き電話を掛ける事や手紙のやり取りについて支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓から見える景色を楽しんでもらったり、壁に季節感を味わえるような飾り付けをしたり、好みの音楽や室温(床暖房)等で快適に過ごせるようにしている。また畳みの場所もあり、本人好みで利用できる。	リビングと食堂は、掃き出しの大きな窓からの自然光で明るく広々としている。窓から見える周囲の山や庭の植木から、季節を感じることができる。壁面に利用者と職員が一緒につくった季節のちぎり絵作品を飾っている。アイランド型キッチンで、利用者が自由に出入りできるようになっている。一角に大きなソファや椅子を置き、利用者がいつでも思い思いに過ごすことができる場所となっている。広い室内は床暖房で、温度、湿度、換気に留意し、居心地よく過ごせるようにしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室やテレビの前、ソファ等独りになれる居場所を作れるように支援している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族写真や好みの家具、ぬいぐるみ等を飾り、居心地良く過ごせるようにしている。	ベッド、寝具、小タンス、衣装ケース、椅子、テーブルなど使い慣れたものを持ち込み、人形や折り紙を飾って居心地よく過ごせるようにしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室に手すりを設け、状態に応じて車椅子を利用する等し、安全で自立した生活が送れるようにしている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームあじさい

作成日： 令和 2 年 6 月 1 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	事故発生時、緊急時に備えて、社内研修で緊急時の対応等の訓練は実施しているが、全職員が実践力を身につけるまでに至っていない。	全職員が緊急時等の初期対応に全職員が実践力を身につけ、落ち着いて行動出来る実践力を身につける。	年1回の消防署による救命救急講習の全職員の受講。緊急時における初期対応や応急手当の実践的な研修会を年4回実施する。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。